

生命の尊重と個人の尊厳を旨とし、和をもって市民に信頼される保険・医療・福祉サービスを提供します。



新院長(前列中央)を囲んで

介護の現場でも、この信頼関係の大切さは共通しているのではないのでしょうか。ただ、認知



わたしが専門とする血液の病気が、それほど数は多くない特殊な病気なのですが、重篤な患者さんが多い。そのようなケースでは、いかに患者さんとの信頼関係を築けるかが鍵になってきます。

急性期医療では、治療における高度な知識と技術が求められるのですが、介護医療では日常を生きていくための知識の提供やサポートが重要になります。これが大きな違いです。

当院は、医療と地域をつなぐという大きな役割も担っています。包括ケアという視点に立ち、患者さんや家族の方だけではなく、地域の方々にも信頼いただける医療機関を目指していきたいと考えています。

本年度(2025年4月)より、神林裕行医師が新院長として就任しました。これまでの長年の医師としての経験やお考え、今後の抱負などについて伺いました。

神林裕行 新院長に聞く

## 信頼関係とコミュニケーションを大切に、地域に開かれた医療をめざして

### 【MESSAGE】



郡山市医療介護病院  
院長  
神林 裕行

### 医療介護のあり方、地域医療の将来を見据えて

初めてこちらでごあいさつさせていただきます。私は数年前まで血液疾患の急性期医療に携わり、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫そして再生不良性貧血の患者さんに対する造血幹細胞移植治療を行っておりました。当時を思い返すと、土日返上の24時間対応でよくやっていたなと思います。その経験の中で困っていたことが一つありました。血液疾患は元々難治性ではありますが、がんばって治療を受けて頂いたにもかかわらず、少なからずの患者さんが、再発難治性となります。その時に終末期医療を受けてくれる医療機関が一つもなかったことです。比較的落ち着いており外来輸血のみで経過を診れるような患者さんも、背景が血液疾患という事で外来輸血を受け入れて下さる医療機関はほぼありませんでした。急性期医療をやりながら、慢性期の外来診療そして終末期医療と気の休まることのなかったことを思い出します。そういう中で少しでも安らぎが得られたのは、患者さんとの深い信頼関係に基づく何気ない日常会話でした。医師の働き方改革で、今は時間的余裕が少しできたのかも知れませんが、その分信頼関係が浅くなってはいないか心配しております。

今年の4月からは慢性期から終末期中心の郡山市医療介護病院で働いております。私も古希を過ぎて昔ほどのパワーはございませんが、私なりの考え方で、医療介護のあり方・地域医療における当院の役割を、将来を見据えながら持続性のある形で模索していきたいと思っております。まだまだ頼りない所があるかと思いますが、職員の皆様のご理解とご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 【INFORMATION】

#### ご案内

#### ビッグハート感謝祭のご案内

10月、コロナ禍後、初めてとなるビッグハート感謝祭を開催します。専門スタッフによる健康相談コーナーやキッズスペース、キッチンカーも出店予定です。周辺地域も秋祭りでにぎわう頃、楽しく、健康を考える機会に、ぜひお越しください。

- 日時 10月18日(土) 11:30~14:00(予定)
- 場所 郡山市医療介護病院 正面玄関前および1階フロア
- 参加費 無料
- 内容 健康相談ブース、キッズスペース(輪投げ・ストラックアウト等) よさこい演舞、キッチンカー・ルワンダコーヒーなど出店予定

#### ご案内

#### こおりやまオレンジカフェ atビッグハート

オレンジカフェとは、物忘れや認知症状が気になる「ご本人・ご家族・関係者のみなさん」と、日ごろの悩みや工夫されていることなどを気軽に話せる集いの場です。当日はミニ講座も予定しています。

- 開催日 9月24日(水)/10月22日(水)/11月26日(水)/12月24日(水)
- 会場 ビッグハート(郡山市医療介護病院 1階玄関ホール)
- 時間 14:30~15:30 ●参加費 200円(おみやげ付)
- 【事前申し込み】連絡先 024-935-0527(郡山市医療介護病院 地域連携室)

#### 認知症サポーター養成講座

郡山市では、認知症に関する正しい知識を持ち、認知症の人や家族を支援する「認知症サポーター」を養成しています。当院が会場となっている講座の日時をご案内します。

- 開催日 9月18日(木)/11月20日(木)
- 対象 郡山市民の方または市内に勤務されている方
- 内容 認知症について、認知症の方との接し方など
- 会場 ビッグハート(郡山市医療介護病院)
- 時間 14:00~15:30 ●参加費 無料 ●定員 50名
- 【事前申し込み】連絡先 024-924-3561(郡山市地域包括ケア推進課)

#### 家族介護教室

当院では、認知症の方を介護するご家族のための教室を定期的に開催しています。お気軽にご参加ください。

- 開催日 10月16日(木)/12月18日(木)
- 会場 ビッグハート(郡山市医療介護病院)
- 時間 14:00~15:30 ●参加費 無料
- 【事前申し込み】連絡先 024-934-1240(郡山市医療介護病院 総務課)

#### 編集後記

ビッグハートプレス40号をお届けします。わたしは昨年9月に入職し、当院での勤務は1年となりました。わたしが常に心掛けていることは、自分のためにも、他人のためにも、日常生活、仕事においてやるべき当たり前のこと、常識的なことこそしっかり行なうということです。特別なことをやるわけではなく、毎日の挨拶から始まり、日常業務を確実にこなし、1日が終われば何事もなければその日に感謝し、明日に備えるべくその日を終わるということです。趣味といえるほど上手ではないのですが、ゴルフは好きです。生来好奇心が強いので、興味ある本はすぐ買ってしまい本がたまって、ワイフと口論になってしまいます。どんな人でも対等に接し、話し合い、お付き合いしたいと考えておりますので、何卒よろしく願い申し上げます。 【循環器内科 鉄地川原正顕】



# 人生100年時代を迎えて 自身の健康管理を考えてみませんか？

6月14日(土)、郡山市医療介護病院主催の第14回市民公開講座が開催されました。はじめに坪井永保医師会会長と神林裕行院長の2人から挨拶があり、その後、太田一寿副院長を座長に当院の医師3人による記念講演が行われました。

今回、市民公開講座が開催された6月14日は「認知症予防の日」。アルツハイマー博士の誕生日を由来にしています。認知症との共生や健康について、それぞれの専門の立場からの講演を報告します。

## 介護の仕組みと 当院のあゆみ

名誉院長 原寿夫

2006年の開院当初から、19年院長を務めた原名誉院長からは、おもに介護にまつわる社会的な背景と問題、それに關連する当院の役割や取り組みなどについての話がありました。

「生活を支える」介護保険制度と、「生き方を支える」成年後見制度は両輪として考えていくことが大切であること、さらに24年に制定された認知症基本法は認知症を抱えた人々が地域で共生していくための重要な法制度であることを説明。認知症基本法の理念は、まさに当院が取り組んできたことと一致していると話されました。

たとえば、本人・家族の意向尊重や支援、地域の理解といった共生社会、切れ目のない保健医療サービス・福祉サービスの提供……といったものです。「認知症の治療は、必ずしも



薬を処方することではなく、社会的処方が必要である」との視点から、当院で実施している認知症カフェ等についても紹介がありました。



でも、家族の方でも、どなたでも参加できます。優しさを伝えるケアの技術ユマニチュードについても学ぶことができますので、気軽に参加してほしいと思います」

## 動脈硬化と 虚性心疾患

診療支援部長  
鉄地川原 正顕

循環器内科を専門とする鉄地川原医師は、まず心臓の中の血の流れから説明。血を送るポンプの役割として、とくに左心室が大切であると話されました。

血液のコレステロールが高くなると、それによって次第に血管がふさがってきて動脈硬化が進みます。この症状が重くなり心筋に血液が供給されなくなると、狭心症や、心筋梗塞などの虚性心疾患を引きおこすとのこと。

続けて、心疾患の診断の方法、治療法や手術について、薬の効果など、豊富な写真やデー

### PRESENTER PROFILE

原寿夫 医師  
はらひさお

三春町出身の内科医(老年内科領域)。

認知症の方々等への、介護保険制度と成年後見制度による意思決定支援を大切にしたいと、優しさを伝えるケア技術である「ユマニチュード」を推進しています。

鉄地川原 正顕 医師  
てちがわらまさあき

福島市出身、福島県立医科大学卒業。専門は内科一般ですが、循環器を得意としています。東京女子医科大学で学んだことが基本となっています。昨年9月に退職しました。緊急事態に対しては常に連絡が取れるよう、患者さんが安心して暮らせるよう配慮しています。

神林 裕行 医師  
かんばやしひろゆき

福島県立医科大学卒業。令和2年まで太田西ノ内病院血液内科に、その後福島県赤十字血液センターに勤務。得意分野は、臨床血液と血液事業。管理職はあまり得意ではありませんが、情報共有とコミュニケーションを大事に職務に当たりたいと思います。

タをもとに専門的な説明がされました。

狭心症、心筋梗塞の患者さんに対してカテーテル治療を1000件以上施行してきたという鉄地川原医師は、その中からいくつかの症例を紹介。

「一部の患者さんはいまも定期的に進行の有無をチェックし経過観察を行なっています。付属する合併症は高血圧、糖尿病、脂質異常症等ですので、これら危険因子に対してのコントロールには自信を持っております」

動脈硬化や心疾患を防ぐために、生活習慣から見直していく必要があると感じました。



## 患者さん及び ドナー自身を守る 献血制度について

院長 神林 裕行

「献血は患者さんの命を守るだけではなく、献血者の健康を守るのに役立つ」というメッセージから献血についての話がスタートしました。

献血による輸血を必要としている患者さんは、ガンや心臓手術などの病気が約8割と圧倒的であることや、輸血の目的についての説明がありました。「血液には、白血球・赤血球・血小板・血漿と、それぞれの働きがあり、どの成分が欠けても生きていけません。けれどもそれらは人工的にはつくれない。だから献血は不可欠なのです」

献血の際は、献血基準に基づき医師による問診・検診があります。これによって献血希望者の健康状態が判断されるとのこと。

神林医師は、「献血は献血者の健康を守るのに役立つ」理由として、以下を挙げます。1 献



## 「見る」について

01 「見る」について

最近介護をしているご家族から、「介護に困っている」という、ご相談を受けることが増えてきました。介護がうまくいかないとき、その理由は、介護をしている方の優しさとはあまり関係がありません。ご本人のためによかれと思って行っている介護が受け入れてもらえないとき、それはその「届け方」に問題があることが多いのです。その「届け方」を学ぶことでお困りになっている状況が解決できる可能性があります。



相手の視界に入って声をかけます

### COLUMN | HUMANITUDE

#### 届け方その1 「見る」について

認知症の方の認知している視野は私たちが想像し

### もっと身近に やってみよう! ユマニチュード

#### 家庭で使えるケアの技術

INSTRUCT BY

日本ユマニチュード学会  
認定インストラクター

香山 壮太

ているよりもかなり狭いのです。視野の外から声をかけても、そばに誰かがいることに気づかず、言葉も認識してないことが多いのです。したがって、相手の狭い視野に、正面から、近く(視線が合う距離)水平に見ること、そして2秒以内に話しかけることが大切です。腰が曲がっていて、いつも下を見ているような場合は、下からのぞくようにして視界に入ることも重要です。